



平成31年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成31年2月13日

上場会社名 中越パルプ工業株式会社
 コード番号 3877 URL <http://www.chuetsu-pulp.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 加藤 明美
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理本部副本部長兼管理部長 (氏名) 石原 秀樹
 四半期報告書提出予定日 平成31年2月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 0766-26-2404

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第3四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第3四半期	70,873	1.4	1,563		1,233		1,295	
30年3月期第3四半期	69,913	1.2	1,068		1,124		747	

(注) 包括利益 31年3月期第3四半期 1,720百万円 (%) 30年3月期第3四半期 198百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第3四半期	96.99	
30年3月期第3四半期	55.96	

平成29年10月1日を効力発生日として、10株を1株とする株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第3四半期	122,187	46,937	38.4	3,511.77
30年3月期	126,064	49,276	39.1	3,690.53

(参考) 自己資本 31年3月期第3四半期 46,888百万円 30年3月期 49,276百万円

平成29年10月1日を効力発生日として、10株を1株とする株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		2.50		25.00	
31年3月期		25.00			
31年3月期(予想)				25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は、平成29年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株の割合で株式併合を実施いたしました。平成30年3月期の1株当たり期末配当金については、当該株式併合を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は「-」として記載しております。当該株式併合を考慮しない場合の30年3月期の期末配当金は2円50銭となり、1株当たり年間配当金は5円00銭となります。

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	96,000	1.2	50		300		200		14.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 有
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期3Q	13,354,688 株	30年3月期	13,354,688 株
期末自己株式数	31年3月期3Q	2,957 株	30年3月期	2,531 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期3Q	13,352,015 株	30年3月期3Q	13,352,612 株

(注)当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」および「期中平均株式数」を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいた見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、今後様々な要因の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

なお、業績予想に関する事項については、四半期決算短信(添付資料)3ページの「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

紙パルプ業界を取り巻く環境は、電子媒体へのシフトや少子・高齢化による構造的問題のため今後も一層厳しい情勢が続くことが予想されます。

このような状況下、当社グループは、発電事業の安定操業や高級白板紙の事業基盤の強化、セルロース・ナノファイバーの開発促進など、「ネクストステージ50」で培った経営資源を最大限活かして収益確保に邁進するとともに、将来の需給環境をはじめ、いかなる事業環境の変化の下にあっても、常に成長を志向できる企業体質の基盤を築くため、中期3ヶ年計画『フォワード304』を策定し取組みを開始しております。

当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、パルプの販売に積極的に取り組んだことに加え、包装用紙・壁紙原紙等の価格復元に取組み、前第3四半期連結累計期間と比較し増収となりました。しかしながら、木材チップや薬品を始めとする原燃料価格の高止まりや、当社工場の定期点検停止時の設備更新工事が前年と比較し長期間となったこともあり前第3四半期連結累計期間と比較し減益となりました。

また、『フォワード304』の取組みの一環である「グループ事業領域の再構築」として、パルプ事業の拡大のため、N-UKP（針葉樹未晒パルプ）を新たにパルプの販売ラインアップに追加いたしました。更に「合弁事業への参画」への取組みにつきまして、株式会社環境経営総合研究所との合弁会社である「中越エコプロダクツ株式会社」を昨年7月に設立し、連結子会社としております。食品トレイ事業への参入に向け、早期の事業活動開始を目指します。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

連結売上高	70,873百万円	(前年同四半期比 1.4%増)
連結営業損失	1,563百万円	(前年同四半期は1,068百万円の連結営業損失)
連結経常損失	1,233百万円	(前年同四半期は1,124百万円の連結経常損失)
親会社株主に帰属する四半期純損失	1,295百万円	(前年同四半期は747百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)

(紙・パルプ製造事業)

◎ 新聞用紙

新聞用紙の販売につきましては、新聞各社の発行部数の減少と広告減が影響した頁数の減少に歯止めがかからない状況が続いており数量・金額ともに前年を下回りました。

◎ 印刷用紙

印刷用紙の販売につきましては、紙媒体から電子媒体へのシフト等により国内需要の頭打ちの受け皿として、東南アジアを中心とした輸出にシフトしましたが、紙からパルプへの転換を進めたことで生産数量が減少し、数量・金額ともに前年を下回りました。

◎ 包装用紙

包装用紙の販売につきましては、紙からパルプへの転換を進めたこともあり数量は前年を下回りましたが、輸出数量を縮小し、国内販売は前年並みの数量を確保しました。金額につきましては期後半からの価格復元が寄与し前年を上回りました。

◎ 特殊紙・板紙及び加工品等

特殊紙・板紙及び加工品等の販売につきましては、需要が堅調な壁紙等で拡販に取り組んだ結果、数量・金額ともに前年を上回りました。

◎ パルプ

パルプの販売につきましては、パルプ市況の回復に伴い、紙からパルプへの転換を進めた結果、数量・金額ともに前年を大幅に上回りました。

これらにより、当事業の業績は以下のとおりとなりました。

連結売上高	62,363百万円	(前年同四半期比 1.0%増)
連結営業損失	2,564百万円	(前年同四半期は2,490百万円の連結営業損失)

(発電事業)

発電事業につきましては、前年は生産本部二塚製造部において、送受電設備の故障により発電事業を停止しておりましたが、当第3四半期累計期間においては安定操業に努めたことにより増収となりました。一方、木質バイオマス燃料発電設備の定期検査の費用が嵩んだことにより減益となりました。

これらにより、当事業の業績は以下のとおりとなりました。

連結売上高	5,058百万円	(前年同四半期比	13.5%増)
連結営業利益	909百万円	(前年同四半期比	10.4%減)

(その他)

当社工場の定期点検停止時の設備更新工事が前年と比較し長期間となったことによる生産減、および7月に発生した西日本豪雨の影響で物流網が混乱したこと等により、紙断裁選別包装・運送事業等の紙・パルプ製造事業を補助する「その他事業」につきまして減収・減益となりました。

これらにより、当事業の業績は以下のとおりとなりました。

連結売上高	14,341百万円	(前年同四半期比	6.5%減)
連結営業利益	8百万円	(前年同四半期比	97.5%減)

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

現金及び預金が1,738百万円、有形固定資産が2,035百万円減少したことなどにより、総資産は前連結会計年度末に比べて3.1%減少し、122,187百万円となりました。

(負債)

金融機関からの借入金が909百万円、支払手形及び買掛金が736百万円減少したことなどにより、負債合計は前連結会計年度末に比べて2.0%減少し、75,250百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて4.7%減少し、46,937百万円となりました。これは主として利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純損失1,295百万円、剰余金の配当667百万円による減少などにより1,962百万円減少したことによります。また、自己資本比率は、前連結会計年度末とくらべて0.7ポイント減少し、38.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の業績予想につきましては、平成30年11月13日に公表しました「平成31年3月期第2四半期累計期間業績予想との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」における業績予想から見直しは行っておりません。

今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,757	3,019
受取手形及び売掛金	23,474	23,578
商品及び製品	7,934	7,638
仕掛品	549	657
原材料及び貯蔵品	5,043	6,018
その他	3,360	2,817
貸倒引当金	△6	△6
流動資産合計	45,113	43,723
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	49,590	49,994
減価償却累計額	△31,380	△32,252
建物及び構築物（純額）	18,209	17,742
機械装置及び運搬具	238,501	239,101
減価償却累計額	△203,473	△205,932
機械装置及び運搬具（純額）	35,028	33,169
その他	11,017	11,369
減価償却累計額	△2,852	△2,912
その他（純額）	8,165	8,456
有形固定資産合計	61,403	59,368
無形固定資産		
その他	281	233
無形固定資産合計	281	233
投資その他の資産		
投資有価証券	8,992	8,586
その他	10,382	10,385
貸倒引当金	△109	△109
投資その他の資産合計	19,265	18,862
固定資産合計	80,950	78,464
資産合計	126,064	122,187

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,122	15,386
短期借入金	28,553	26,409
1年内償還予定の社債	2,000	2,000
未払法人税等	149	115
賞与引当金	461	144
その他	4,890	5,272
流動負債合計	52,176	49,328
固定負債		
長期借入金	19,294	20,529
関係会社事業損失引当金	63	55
退職給付に係る負債	5,075	5,184
その他	177	152
固定負債合計	24,611	25,922
負債合計	76,788	75,250
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,864	18,864
資本剰余金	16,253	16,253
利益剰余金	13,009	11,047
自己株式	△5	△6
株主資本合計	48,122	46,158
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,440	1,012
為替換算調整勘定	88	76
退職給付に係る調整累計額	△375	△360
その他の包括利益累計額合計	1,154	729
非支配株主持分	-	48
純資産合計	49,276	46,937
負債純資産合計	126,064	122,187

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	69,913	70,873
売上原価	58,585	60,622
売上総利益	11,327	10,251
販売費及び一般管理費		
販売手数料	4,784	4,039
運搬費	4,200	4,238
保管費	982	1,110
その他	2,428	2,425
販売費及び一般管理費合計	12,396	11,814
営業損失(△)	△1,068	△1,563
営業外収益		
受取利息	72	78
受取配当金	136	155
為替差益	18	111
持分法による投資利益	-	136
その他	94	90
営業外収益合計	321	572
営業外費用		
支払利息	176	171
持分法による投資損失	121	-
その他	79	71
営業外費用合計	377	242
経常損失(△)	△1,124	△1,233
特別利益		
固定資産売却益	7	3
関係会社清算益	95	-
固定資産撤去費用引当金戻入額	173	-
特別利益合計	276	3
特別損失		
固定資産除却損	143	260
特別退職金	12	36
特別損失合計	156	297
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,004	△1,527
法人税、住民税及び事業税	89	47
法人税等調整額	△346	△279
法人税等合計	△257	△231
四半期純損失(△)	△747	△1,295
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-	△0
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△747	△1,295

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純損失(△)	△747	△1,295
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	381	△317
退職給付に係る調整額	20	23
持分法適用会社に対する持分相当額	146	△130
その他の包括利益合計	548	△425
四半期包括利益	△198	△1,720
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△198	△1,720
非支配株主に係る四半期包括利益	-	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	紙・パルプ 製造事業	発電事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	58,931	4,458	63,389	6,523	69,913
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,802	—	2,802	8,813	11,615
計	61,734	4,458	66,192	15,336	81,529
セグメント利益 又は損失(△)	△2,490	1,015	△1,475	336	△1,138

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、紙加工品製造事業、運送事業、設備設計施工・修理事業、原材料事業、紙断裁選別包装事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益又は損失(△)	金額
報告セグメント計	△1,475
「その他」の区分の利益	336
セグメント間取引消去	65
棚卸資産の調整額	5
その他の調整額	△0
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△1,068

II 当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	紙・パルプ 製造事業	発電事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	59,949	5,058	65,007	5,866	70,873
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,414	—	2,414	8,475	10,889
計	62,363	5,058	67,422	14,341	81,763
セグメント利益 又は損失(△)	△2,564	909	△1,655	8	△1,647

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ナノフォレスト事業、紙加工品製造事業、運送事業、設備設計施工・修理事業、原材料事業、紙断裁選別包装事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益又は損失(△)	金額
報告セグメント計	△1,655
「その他」の区分の利益	8
セグメント間取引消去	62
固定資産の調整額	13
その他の調整額	7
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△1,563

(会計方針の変更)

(たな卸資産の評価方法の変更)

たな卸資産のうち、商品及び製品に係る評価方法は、従来、主として移動平均法による原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用していましたが、当連結会計年度より、主として総平均法による原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)に変更しております。

この変更は、原価システムの更新を契機として、当社が年2回行う主力工場の長期点検停止の影響を平準化し、期間損益計算及び在庫評価額の計算をより適正に行うことを目的に行ったものであります。

過去の連結会計年度については総平均法の計算を行うために必要な在庫受払記録を保持していないため、この会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を算定することは実務上不可能であります。そのため、前連結会計年度末における商品及び製品の帳簿価額を当連結会計年度の期首残高として、平成30年4月1日から将来にわたり総平均法を適用しております。

なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。